

***** 2012.9.26 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
 〒106-0047 東京都港区南麻布 5-2-39
 ニュー東和ビル 503 号室 国際協力サロン気付
 Tel. 03-3447-2921 Fax 03-6277-3775
 Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
 E-mail japan-malawi@auone.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
 人口：1490 万人 (2010 年世界銀行)、首都：リロングウェ
 独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
 政体：共和制、大統領：ジョイス・バンダ
 為替レート：US\$ 1 = MK 264.623 (9月9日現在)
 MK 1 = 0.29円 (9月9日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：206人(9月9日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース ムタリカ大統領死去、ジョイス・バンダ新大統領へ政権移行



マラウイのピング・ワ・ムタリカ大統領(写真：左)は2012年4月5日、執務室で倒れ病院に搬送されたが死去した。死因は心臓発作によるもの。

憲法の規定に則り、新大統領にはジョイス・バンダ副大統領が4月7日に昇格・就任した。

日本マラウイ協会では4月10日、駐日マラウイ大使館にて数原会長と鶴田理事が弔意表明の記帳を行った。

ニュース マラウイ国旗、再び変更

マラウイの国旗は2010年7月29日に独立以来使っていたものから変更された(KWACHA第44号既報)が、今般の政権移行にともない5月29日、再び元の国旗(本ページ右上の国旗)に戻す法案が国会を通過した。

(変更の理由については、3面に掲載の国情セミナーにおける駐日マラウイ大使の回答参照)

ニュース 通貨切り下げ

マラウイ政府は2012年5月7日、通貨クワチャを1米ドル=168クワチャから250クワチャに切り下げたと発表した。切り下げ幅は49%。これは公定レートと市場レートの差を解消するため、IMF国際通貨基金等の要請に応えたもの。現在の市場レートは、本ページ左上欄参照。

ニュース 第30回通常総会と理事会開かれる

日本マラウイ協会の第30回通常総会が2012年5月19日(土)15:00から、東京・広尾のJICA地球ひろばセミナールームで開かれた。

第1号議案では平成23年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の4つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙KWACHA第46号、第47号発行など
- (2) 文化・交流活動：国情セミナー・シマを食べる会開催など
- (3) 国際協力活動：マラウイウォームハートプロジェクト募集、マラウイ母の会への協力など
- (4) 組織活動：会員の入会勧誘活動、長期会費滞納者/住所移転先不明者の退会処理など

第2号議案の平成24年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。広報活動では、第5回協力隊まつり、グローバルフェスタJapan 2012への出展、文化活動には2000年に発行したチェワ語辞典統合改訂版の2訂版発行に向けての継続活動が盛り込まれた。

各議案はそれぞれ質疑応答の後、議長が一同に諮り、満場一致で承認された。

一方、7月21日(土)13:45からは同じくJICA地球ひろばセミナールームにて理事会が開かれ、今年度第1四半期の活動報告が行われた。

イベント 第5回協力隊まつり

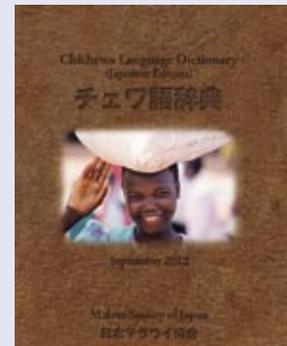
日本マラウイ協会は2012年4月21・22日(土・日)、JICA地球ひろばで開かれた「第5回協力隊まつり」に出展した。

これは2005年10月に開催された「青年海外協力隊(JOCV)発足40周年記念ボランティアフェスタ」をきっかけに高まった帰国隊員の意識を継続し、さらなるボランティア事業の啓発・広報を踏まえたボランティアの募集拡大に対し、経験者がその一翼を担うことを目的に、青年海外協力協会(JOCA)が主催者となり5年前に始めたものである。昨年は東日本大震災の影響で開催が見送られた。また、地球ひろばのあるJICA広尾の建物が9月に国庫返納されるため、同地での開催は最後となった。

当日は、地球ひろばの前庭とセミナールーム

いよいよ発刊！ チェワ語辞典統合改訂2版

日本マラウイ協会ではチェワ語辞典統合改訂2版を発刊する。これは2000年7月に発刊した統合改訂版が完売し、在庫がなくなっても注文が止まないため、2年前から改訂作業を進めていたもの。発刊予定は9月30日。購入ご希望の方は4面の「日本マラウイ協会の刊行物」を参照ください。



などを会場とし、前者には飲食販売の団体が、後者には主に展示主体の団体がテントやブースを構えた。



▲テントでマンダジを調理販売

日本マラウイ協会は前庭にテントを構え、マラウイのお菓子「マンガジ」の調理販売を、4階のブースでは、写真パネル展示、当会出版物やマラウイの民芸品、マラウイ母の会製作の「チテンジバッグ」の販売を行った。

イベント 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会は2012年7月21日(土)、東京・広尾のJICA 地球ひろばにてマラウイ独立48周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後3時から、駐日マラウイ国大使 H.E. R. Ngwenya が約1時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った(要旨は次記事参照)。



▲ 講演する Ngwenya 大使



▲ 講演を聴く参加者

午後4時からは玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Ngwenya 大使と数原会長が献花した後、全員で1分間の黙祷を行った。

その後、会場を1階のレストラン「カフェ・フロンティア」へ移し「シマを食べる会」を行った。まずテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、数原会長の独立48周年への祝辞、Ngwenya 大使の答辞、Mapundula 書記官による大使館職員と職員家族の紹介が行われ、Mapundula 書記官の乾杯で会は始まった。



▲ お開きの前の記念写真



▲ 大使と参加者

マラウイ事務所長を始め、多くの方が出席されています。

マラウイが今までに何をやってきたかと、これから何をしなければならないかを知っていただいたうえで質問や意見をいただきたいと思ひます。

マラウイと日本は真の開発パートナーです。マラウイ単独では多くのことはできません。そのため青年海外協力隊が活躍しています。隊員によってマラウイ国内の遠隔地で活動しており、私たちはそのことに大変感謝しています。

きょうはマラウイの基礎的な事実、政治経済・観光・鉱業、マラウイと日本の関係、両国が一緒にしなければならないことに焦点をあて、その後には質疑応答を持ちたいと思ひます。

大使・大使館職員・家族・OB/OGら80名を超える参加者は、シマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、民芸品などが当たるお楽しみ抽選会が行われ、当選者は歓喜に沸いた。

国情セミナー要旨

- 日時：2012年7月21日(土) 15:00～16:00
- 場所：JICA 地球ひろば 4F セミナールーム401
- 講師：駐日マラウイ国大使
H.E. R. Ngwenya

こんにちは(日本語)。このような会を開いてくださり大変ありがとうございます。きょうはJICA

まず、両国は地理的には遠いかもしれませんが、私たちの気持ちの中では近い国です。その意味で両国の距離は短いと言えます。また時間距離にすれば約20時間であり、東京から大分に行くのと同じようなものとも言えます。(訳者注：東京から大分へ平均時速数十kmで行けば20時間程度かかる。)

マラウイは1964年に日の出(独立)を迎えました。現在では20を超える政党があります。 Chewa 語など10以上の言語がありますが業務に使う言語は英語です。宗教ではキリスト教が約80%を占めています。日本の方が来られても違和感はないと思ひます。面積は118,484km²で人口は約1400万人です。人口増加が大きく、どうやって人口を抑制するかが課題になっています。

マラウイは「アフリカのあたたかい心(The Warm Heart of Africa)」と言われます。人々は温厚でよく挨拶をします。また気候も温暖で暑すぎも寒すぎもありません。雨期と乾期の二つの季節があります。

今年の4月に、大統領が執務中に心臓発作で亡くなるという悲しい出来事が起きました。その際には駐日マラウイ大使館に弔問・記帳に来てくださり、大変ありがとうございました。私はマラウ



▲ 慰霊碑前で

イにおり失礼いたしました。元気づけられたことはそのことだけではなく、新大統領が憲法に従って就任したことです。Joyce Banda 新大統領は、飢餓や貧困などへの取り組みに対して多くの賞を受賞しており、世界の中でも最も力強い人だと言えます。彼女がすでに実施した成果としては、まず平和的な政権の移行があげられます。大統領の突然の死去により、マラウイが混乱に陥るという状況を懸念する人もいました。実際、新大統領のリーダーシップが無ければ政権移行が平和的に行われなかったかもしれません。とは言うものの、多くのマラウイ人は日本人のように謙虚な国民です。日本人がお辞儀をするのを見てもマラウイ人は驚きません。なぜならそのような挨拶はマラウイ人の中でも普通のことだからです。結局、政権移行に伴う衝突は皆無でした。新政権は国会議員を擁しているほとんどすべての政党からなる内閣を組織しました。一方、国際関係も改善し、財政支援やプロジェクト支援などの多くの協力を獲得しています。また人権の擁護も推進されています。

アフリカ連合 (AU) の第 19 回首脳会議は今年の 7 月にマラウイで開催される予定でしたが、エチオピアのアジスアベバに変更されて開催されました。この変更には人権問題が関係しています。マラウイが自国での開催を辞退したわけではありません。実は昨年、東南部アフリカ市場共同体 (COMESA) の首脳会議がマラウイで開催されました。その会議にはスーダン大統領が出席し、そのことで諸援助国から「マラウイはなぜ国際刑事裁判所から逮捕状が出されているスーダン大統領を招いたのか」と非難され援助を停止されました。これが今年の AU 首脳会議の開催地変更の背景です。マラウイには開催を受け入れる用意がありました。しかし会議にはすべての AU 構成国首脳が参加することになっており、結局 AU が開催地を変更することにしました。マラウイにとっては難しい判断でした。しかし重要なことはマラウイの国民のために判断するということです。マラウイはスーダンに平和維持のための人員を派遣しており、今でも両国は良い関係を保っています。

マラウイの経済成長率は年率約 7% で世界でも最も高成長している国の一つです。先進諸国と異なり発展する余地や分野が大きいので年率 15% の発展も高すぎることはないと考えています。たとえば貿易や鉱業分野が有望です。マラウイにはすでに 10 種類を超える鉱物資源の埋蔵が確認されています。鉱物の種類の数では南アフリカを上回っています。このため高成長が見込まれており、情報通信技術などの先進技術を活用できればさらに発展は速まるでしょう。

マラウイは最近 49% の通貨切り下げを行いました。通貨切り下げは必要悪とも言われ、長期的には重要なことです。外国企業によるマラウイへの投資の動きなどの兆候がすでに見られています。マラウイ側は関税の低減や事業関係の法律改正などの投資環境整備を進めています。

アフリカは電力が欲しくて泣いていると言われます。マラウイでは日本の支援を得て電力開発を進めており、またモザンビークの Cahora Bassa ダムから電力供給を受けることになっています。

マラウイと日本との関係はますます深まってい

ます。日本の協力としては道路整備などに加えて、教育分野ではマラウイ人留学生の日本への受け入れ増加があります。逆に今年は、日本の留学生がマラウイの Mzuzu 大学に留学しました。

マラウイはアフリカで最初に一村一品運動 (OVOP) を導入した国であり、今では日本に輸出されている産品もあります。熱帯果物や野菜が一村一品運動によって、たとえばトマトジュースのように加工されることが期待されています。そのため日本企業がマラウイに進出して農産品の付加価値を高めることを期待しており、たとえばミツ矢サイダーや果実・野菜飲料を作っているアサヒ飲料のような企業がマラウイに進出することを望んでいます。

今でもマラウイのマカデミアナッツやコーヒーは日本で消費されています。チョコレートに入っているマカデミアナッツのほとんどはマラウイ産です。またマラウイのコーヒーは日本貿易振興機構 (JETRO) の品評会で受賞しています。マラウイの魚も日本に輸送されています。その他にマラウイには宝石もあります。また観光では宿泊施設が改善されつつあり、五つ星ホテルもあります。

投資機会としては、鉱業、かんがい、公共インフラストラクチャー、果物と食糧、保健、教育、電気通信と情報などの分野が挙げられます。また実施方法としては自治体と民間の連携が注目されています。国際協力機構 (JICA) との検討では、政府開発援助 (ODA) に加えて、非政府組織 (NGO) を含む外国からの直接投資が重視されています。

マラウイではクレジットカードで現金を引き出すことは以前は難しいことでした。しかし今年の 4 月に一時帰国した時には必要な額をクレジットカードで引き出すことができました。また地方のレストランでも現金でなくカードで支払うことができました。一方、通信分野では tnm 社が 4 ギガ (Giga bit/sec) の高速インターネット接続サービスを提供しています。これはアフリカではまれなことです。

以前マラウイにいた人もそうでない人もマラウイに来てください。

■ マラウイに就任する予定の方の自己紹介と質疑応答

- ・ 青年海外協力隊員 (理学療法士) として就任予定の方の自己紹介。
- ・ 医療スタッフとして就任予定の方の自己紹介と主な病気に関する質問。

【大使回答】

マラウイではマラリアが主な病気の一つであり、さらに詳しい情報はマラウイ大使館でも入手できます。

■ 国旗が変更された後に、また元にもどったのはなぜですかとの質問。

【大使回答】

マラウイの元の国旗は半円形の日の出を描いていましたが、年率約 7.5% の経済成長を実現したこともあり、十分成長した象徴としての円形の太

陽のデザインへの変更案が国会を通過しました。しかしその後、十分成長したというのは本当ではないとの反感が強まり、新大統領になって、マラウイは今なお発展途上にあるとの認識が受け入れられ、国旗のデザインが復活されました。成長率が 7.5% から 15% に高まることも期待されています。

■ 数原孝憲日本マラウイ協会会長の挨拶

大使の講演に感謝申し上げます。講演のあとで両国の距離はさらに縮まりました。マラウイには 7% の経済成長を 10 年間継続していただきたいと思えます。そうすれば GDP は 2 倍になります。15% を目指すと経済が失速する懸念が生じます。それより安定的で着実な発展を期待いたします。

投稿

マラウイへの抱負



幕内 良子

はじめまして。公益社団法人日本民間国際協力会 (NICCO) のリロングウェ県でのマラウイ医療支援事業に従事する予定

の幕内良子 (まくうちりょうこ) と申します。マラウイでの仕事に備えて、チェフ語辞典を用意しようとして、マラウイ協会に問い合わせの電話をかけたのがきっかけとなり、今回の記事を書かせていただくこととなりました。

私は日本の病院で助産師 / 看護師勤務を経てアメリカに渡り、公衆衛生修士を取得し、今年 6 月に卒業しました。大学院では主に途上国における母子保健・緊急産科医療に関する分野を学びました。NICCO の事業では、母子保健領域とくに伝統的産婆との健康教育や助産師たちとの勉強会などの活動、HIV/AIDS をはじめとする感染症対策などに携わらせていただく予定です。

この度、マラウイ協会を通じて、青年海外協力隊の先輩方やマラウイに滞在されていた方々とお会いしたり、在日マラウイ大使の講演を聞く機会を与えていただくことができました。(そして、シマをいただくことも!) 皆様と共通していることはマラウイとそこに住む人々を心から大切に思っているということです。マラウイでは肯定的な体験ばかりではなかっただろうとお察ししますが、多くの日本人がこれからのマラウイの成長を想い、自分たちは何ができるのかと考えておられるのは、本当にすばらしいと思いました。

私は、皆様との出会いや、大学院在籍中にインターンとして働いたカメルーンでの経験を通じて、アフリカそしてマラウイで仕事をするにあたり、忘れてはならないと思っていることがあります。その一つは「真実を見る」ということです。アフリカには多くの難題が残っていますが、イメージや印象に頼るのではなく、真実を見る目を失ってはいけないと感じています。思い込みや、他で形成されたイメージが先行してしまえば、現場で本当に必要なことに則った仕事はできないばかりか、現地の発展までも妨げてしまうかもしれません。私は常に自分の感性を研ぎ澄まし、現地の人々の真の姿や現状を自分の目で見て判断する姿勢を持ちたいと思っています。

二つ目は「現地の子どもたちは現地の将来を

作る」ということです。大人と違って子どものころに見聞きしたことは強く印象に残ります。現地に滞在する私は彼らにとって初めてみるアジア人かも知れませんが、数少ない外国人の一人でしょう。私の行動や態度すべてを通して、海外や日本という国を理解するのかもしれない。私の対応が子どもの心に強く残り、大人になってからも思

い出すこともあるでしょう。そう考えると、私も彼らの中に良いモデルとして残るような大人でなければいけないと思います。私が取る行動の一つは、もしかしたらマラウイの将来につながるのだという意識を忘れずに、それだけの重みを感じながら子どもたちに接したいと思っています。

今回、出発前にマラウイ協会の皆様とお会いできた

ことは私にとって幸運でした。私は自分のあるべき姿勢を一層強く考えることができました。今後も、協会の皆様方や現地に滞在されている方々には何かとお教えいただくことやお世話になることがあることと思います。何卒ご指導、ご鞭撻くださいますようよろしくお願い申し上げます。

最近のマラウイ関係テレビ/ラジオ番組/記事

2012.9.2 18:00-18:30 TBS 系列

『THE 世界遺産』進化する魚!

アフリカ古代湖～マラウイ湖国立公園



日本マラウイ協会 2012年3月～2012年8月 主な活動内容

(1) 2012.3.28	3月定例会
(2) 2012.4.21-22	第5回協力隊まつり出展(1面記事参照)
(3) 2012.4.25	4月定例会
(4) 2012.5.19	第30回通常総会(1面記事参照)
(5) 2012.5.30	5月定例会
(6) 2012.6.20	6月定例会
(7) 2012.7.21	理事会、国情セミナー・シマを食べる会(2-3面記事参照)
(8) 2012.7.26	7月定例会
(9) 2012.8.29	8月定例会

日本マラウイ協会情報

■ 当会への郵便物宛先変更

平成24年4月1日より当会への郵便物宛先は右の入会方法等に記載のとおり変更になっています。ご注意ください。これは、これまでの気付先であったJOCA青年海外協力協会が3月末で移転したためです。電話、E-mailは変更ありませんが、FAXが変更になっています。

■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAK ONLINEというサイト<http://www.zodiakmalawi.com>で画面右上の「ON LINE RADIO」と書かれたボタンをクリックするとチェワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクロソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2012年2月26日に設立29周年を迎えましたが、設立時の機関紙 KWACHA 第1号から第48号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。<http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) マラウイ旅行ガイド新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ 1部 1,200円(送料210円)

(2) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(1994年7月発行)A4版40ページ 1部 1,000円(送料210円)

(3) チェワ語辞典統合改訂2版(2012年9月発行) A5版194ページ 1部 1,500円(送料290円)

送料は「ゆうメール(旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。上記3種類を複数冊ご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) 各1冊 = 290円

(1)+(3) 各1冊 = 340円

(2)+(3) 各1冊 = 340円

(1)+(2)+(3) 各1冊 = 340円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛

に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」)をメールまたは FAX でご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第4水曜日18:30～に、東京都内(原則: 下記の国際協力サロン)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード(<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>)し、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合 3,000円)は、E-mail または FAX でご連絡の上、お送りください。

〒106-0047 東京都港区南麻布5-2-39 ニュー東和ビル503号室

国際協力サロン気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-6277-3775

E-mail: japan-malawi@auone.jp

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義: 日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)